

令和6年度(2024年度)

研究紀要

第36号

知的障がい特別支援学校における
授業改善に関する研究

～文部科学省著作教科書(星本)を活用した
児童生徒の資質・能力の育成を目指す授業づくり～

北海道立特別支援教育センター

Hokkaido Special Needs Education Center

ま え が き

令和6年9月に文部科学省が公表した「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会 論点整理」では、非連続的な変化が予想される未来を生きる子どもたちに必要な資質・能力を育成していくためには、子ども一人一人に応じた多様で柔軟な教育活動が展開されることが望ましいと示され、各教科等の本質的な内容についての深い理解を伴う資質・能力の育成を前提としつつ、子どもたちが個性・特性を生かして多様な学び方ができるようなものとしていく必要性があることが示されています。さらには、多様な個性・特性を有する全ての子どもに資質・能力を育成する上で子ども一人一人を見取り、適切な指導やかかわりを行う教師の指導性はより積極的かつ高度なものが求められるとし、学校における教育課程、学習指導及び学習評価をより質の高いものとしていくことの重要性が高まっています。

特別支援教育においては、直近10年間で義務教育段階の児童生徒数が1割減少する一方で、特別支援教育を受ける児童生徒数はほぼ倍増となるなど、学校教育の現場において特別支援教育の充実が大きな課題となっているところであり、本道の知的障がい特別支援学校においても児童生徒数の増加傾向が見られるとともに、在籍する児童生徒の障がいの状態が多様化しています。

平成29年4月に公示された特別支援学校小学部・中学部学習指導要領において、知的障がい者である児童生徒のための各教科等の改善・充実が図られ、各学校において学習指導要領の着実な実施に向けた取組が進む中、北海道教育委員会が策定した「特別支援教育に関する基本方針（令和5年度～令和9年度）」では、知的障がい教育の課題として「児童生徒の学習上の特性を踏まえた思考力・判断力・表現力や主体的に活動する力などを培う実地的・具体的な指導の充実」や「知的障がい特別支援学校の各教科等の目標や内容、各段階のつながり及び小・中学校等の各教科等との学びの連続性を踏まえた、個別の指導計画の活用による各教科等の指導の充実」などが挙げられ、児童生徒一人一人の能力や可能性を可能な限り伸長させるための知的障がいの特性を踏まえた指導形態の選択や、個々の能力を最大限伸長させる指導の充実が求められているところです。

本研究では、本道の特別支援教育における今日的な課題解決に資するために、知的障がい教育に携わる教員が、学習指導要領に示される各教科等の目標及び内容と育成を目指す資質・能力の三つの柱についての理解を深め、授業づくりの充実につなげることを目的に取り組みました。

本研究成果を各学校の実践や研究・研修活動に御活用いただき、その成果や本研究への忌憚なき御意見をお寄せいただければ幸いに存じます。

最後に、本研究の推進に当たり、御助言・御協力をいただきました、研究協力校及び関係者の皆様に厚く御礼申し上げ、発行に当たっての御挨拶といたします。

令和7年（2025年）3月

北海道立特別支援教育センター所長 柏 木 拓 也

知的障がい特別支援学校における授業改善に関する研究
～文部科学省著作教科書（星本）を活用した児童生徒の資質・能力の育成を目指す授業づくり～

深町 友祐** 岡森 博宣* 宮町 悦信** 荒井 美聡* 小幡 史門*

本研究の概要	1
I 研究の背景	
1 知的障がい教育における授業づくりに関する国及び道の動向	2
2 知的障がい教育における授業づくりの改善・充実に向けて	5
II 研究の目的と方法	
1 本研究の目的	6
2 研究の仮説	6
3 研究の方法	6
III 研究の内容	
1 アンケート調査の実施	10
2 研究協力校における授業づくり	22
3 知的障がい教育における授業改善の方向性	58
IV 研究のまとめ	
1 研究の成果	62
2 今後の課題	62
外部研究協力者	63
参考文献	64
資料	
・ アンケートの調査用紙	
・ 評価指標	

* 知的障がい教室

** 聴覚・言語障がい教室

本研究の概要

研究テーマの設定

知的障がい特別支援学校に在籍する児童生徒が増加し、重度・重複化が進む中、国の報告や本道の特別支援教育に関する基本方針等では、知的障がい特別支援学校の各教科において育むべき資質・能力を着実に児童生徒に身に付けさせる観点から、文部科学省著作教科書（星本）の更なる作成の必要性や活用の促進について示されている。

平成29年の学習指導要領改訂において知的障がい者である児童生徒のための各教科等の目標及び内容が、育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づいて整理されたことを受け、本道の知的障がい特別支援学校においても学習指導案等の様式の整備や資質・能力の育成をテーマとした校内研究が行われているが、実際の授業では、身に付けさせたい力が教師の主観となったり、活動から授業のねらいを設定したりするなどの実践も散見される。

知的障がいのある児童生徒の資質・能力を育成するためには、児童生徒の学ぶ各教科の段階を把握することはもとより、学習指導要領に示された各教科の目標や内容を踏まえた授業づくりが重要となるため、文部科学省著作教科書（星本）を活用した授業モデルを構築することにより、知的障がい教育における授業づくりの充実を図ることを目的に本研究テーマを設定した。

研究の目的

知的障がい教育に携わる教員が、学習指導要領に示された各教科の目標及び内容について理解を深め、育成を目指す資質・能力の三つの柱を踏まえた授業づくりが行えるよう、文部科学省著作教科書（星本）を活用した授業モデルを構築し普及を図ることにより、知的障がい教育における授業づくりの充実に資する。

研究の方法及び内容

- ・全道の知的障がい特別支援学校を対象に、育成を目指す資質・能力の三つの柱を踏まえた授業づくりに関する取組の状況や課題、文部科学省著作教科書（星本）の認知と活用に関するアンケート調査を実施する。
- ・研究協力校4校と文部科学省著作教科書（星本）を活用した授業づくりを行う。

研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- ・アンケート調査の実施により、本道の知的障がい特別支援学校における授業づくりの課題や星本の認知度及び活用の状況を明らかにすることができた。
- ・文部科学省著作教科書（星本）を活用して授業づくりを行うことにより、授業担当者が学習指導要領に示される各教科の目標についての理解を深め、児童生徒の学ぶ段階を明らかにしながら、資質・能力の育成に向けて授業を行うことができた。

2 今後の課題

- ・知的障がい教育に携わる教員が、各学校において日常的に文部科学省著作教科書（星本）を活用して授業づくりを行えるよう、活用の効果と方法を分かりやすく示し、周知する必要がある。
- ・本研究では、授業改善のPDCAサイクルにおける「計画-実施」を中心として取り扱っており、「評価-改善」まで含めた一連の検証には至っていないことから、より多くの事例によって授業モデルの検証を行い、その成果と課題を収集しながら改善を重ねる必要がある。